

# 田園回帰

～新しい日本に向けて～

小田切 徳美(明治大学)

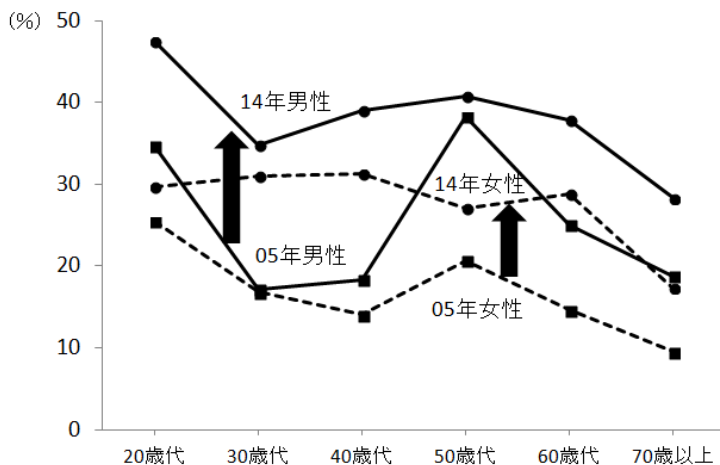
# 田園回帰—農山村の新傾向—

■ 政府の食料・農業・農村白書(2014年)で「田園回帰」特集

■ 国民の「田園回帰」志向 ← 世論調査結果

- ・ 移住希望傾向の強まり(2005年・21% → 2014年32%)
- ・ 世代別には若者(男20-40歳代、女30-40歳代)

図 農山漁村に対する定住の願望を持つ人の割合  
(内閣府世論調査、2005年と2014年)



注:資料=内閣府「都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査」(2005年実施)及び同「農山漁村に関する世論調査」(2014年実施)より作成。いずれも、「あなたは、農山漁村地域に定住してみたいという願望がありますか」という問に対して、「ある」、「どちらか」とあるという回答の合計構成比。

**「田園回帰」国が後押し**  
農業白書 若者移住で農村活性化

読売新聞 2015年 5月27日

政府は2014年2月、2014年度の農業白書「食料・農業・農村政策」を閣議決定した。今回、人口減少を等身で初めて取り上げ、田園回帰を推進する方針を打ち出した。ただ、田園回帰は、都市から農村へ移住する人だけでなく、農村に生まれ育ち、農村で暮らす人への移住も促す。一方、14年の内閣府の世論調査によると、農村に定住したいという希望は、2005年の21%から32%に増えた。

特に20代男性は、2005年の25%から2014年の34%に増えた。20代女性も25%から29%に増えた。30代男性は17%から35%に、30代女性は16%から31%に増えた。40代男性は14%から39%に、40代女性は14%から31%に増えた。50代男性は21%から41%に、50代女性は21%から38%に増えた。60代男性は14%から38%に、60代女性は14%から29%に増えた。70歳以上は9%から28%に、70歳以上女性は9%から18%に増えた。

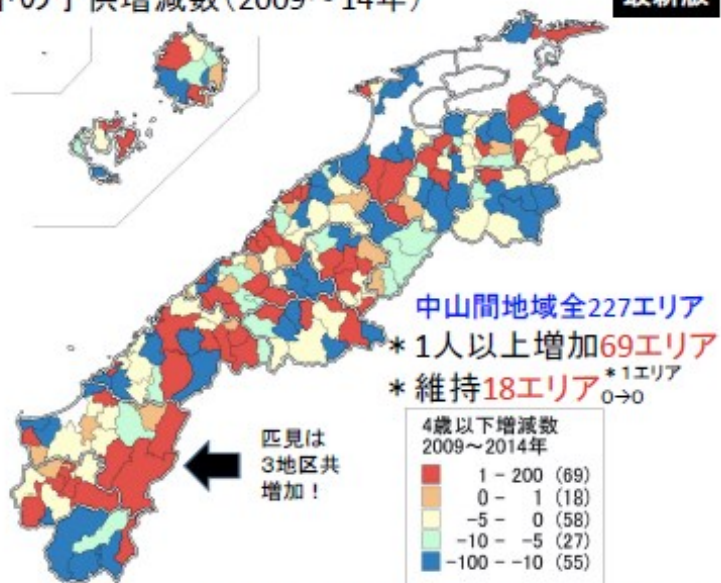
# 田園回帰—農山村の新傾向—

## ■「田園回帰」の地域的広がり

(島根県中山間地域研究センター・藤山浩博士)

②4歳以下の子供増減数(2009~14年)

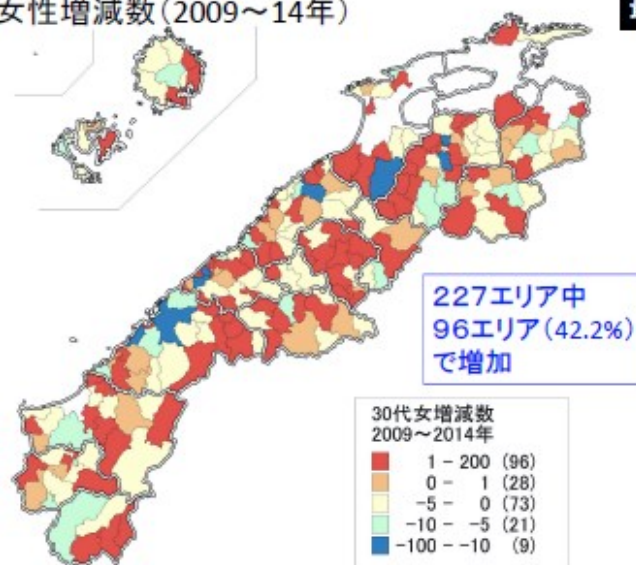
最新版



\* 住民基本台帳による日本国籍を有する住民を対象として比較

③30代女性増減数(2009~14年)

最新版



\* 住民基本台帳による日本国籍を有する住民を対象として比較

\* 2009年に30~39歳であった女性グループの増減

→ 離島、山村で親と子どもの増加

# 田園回帰－農山村の新傾向－

## ■ 移住者の特徴（実態調査より）

- ① 20～30歳代が多い－「団塊の世代」は少ない
- ② 女性割合が上昇；夫婦移住、単身女性、「シングルマザー」－従来は圧倒的に単身男性
- ③ 職業は「パラレル・キャリア」（ピーター・ドラッカー）  
・移住夫婦の標準＝「年間60万円の仕事を5つ集めて暮らす」（島根県、約3割の移住者は多業）

<例・新潟県>

夫＝NPO職員＋新聞配達＋里山ガイド  
＋健康体操インストラクター＋農業  
妻＝飲食店パート＋農業

# 田園回帰－農山村の新傾向－

④「Iターン」が「Uターン」を刺激

⑤「孫ターン」も登場

- ・Uターンでも、Iターンでもない第3のパターン
- ・祖父母：農山村  
父母：東京（農山村→大都市）  
孫：農山村（大都市→農山村）
- ・女性人気週刊誌も特集



# 田園回帰－農山村の新傾向－

■「移住者などごくわずかなもの」という批判に対して

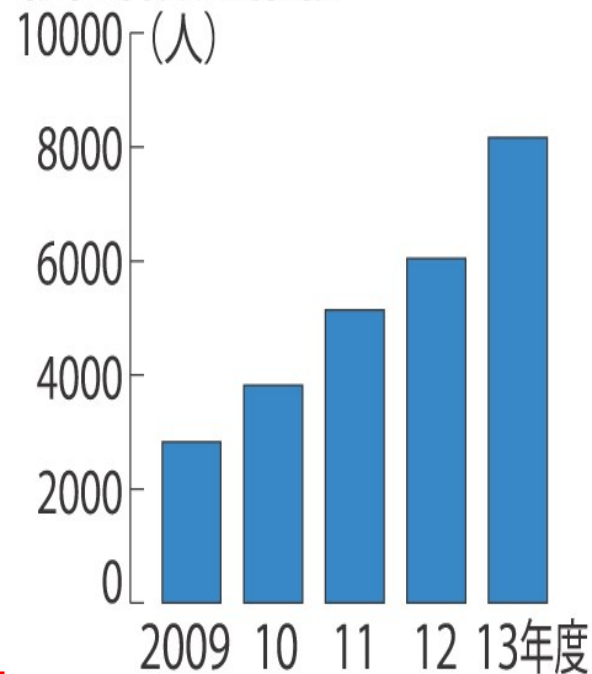
## 1. 移住者の質的位置

- 「**選択住民**」の強い発信力  
(⇔「運命住民」)

## 2. 量的な動向

- 移住者数の実態 (1月3日毎日新聞)  
「毎日・明治大学合同調査」
- 2013年度・全国＝8,181人  
(最狭義－実際はその数倍)
- 4年間(2009～2013年)に**2.9倍**

移住者数の推移



# 田園回帰－農山村の新傾向－

## ■何故、若者は農山に向かうのか？

(「地域おこし協力隊」(2009年から)の調査結果より)

1. 多様な動機
2. 「失業」「職がない」等の理由は皆無
3. 3つの代表的なタイプ

- ①貢献志向
- ②定住志向
- ③楽しみ志向

表 「地域おこし協力隊」の応募理由  
(アンケート結果、2013年8月)

(単位:%)

順位	応募理由	最大理由 (単一回 答)
1	地域の活性化の役に立ちたかったから	19
2	現在の任地での定住を考えており、活動を通じて、定住のための準備をしたかったから	17
3	自分の能力や経験を活かせると思ったから	15
4	活動の内容がおもしろそうだったから	12
5	現在の任地への何らかの繋がりがあったから	8
6	一度、田舎(地域)に住んでみたかったから	7
7	都会の生活に疲れたから、都会の生活はもういいかなと思ったから	4
8	誘ってくれる仲間がいたから	4
9	地元(同一県内を含む)で働きたかったから	2
10	他の就職先が見つからなかったから	0
－	その他	12
回答者数(425名)		100

注: 資料= 移住・交流推進機構(JOIN)「地域おこし協力隊・隊員アンケート調査」(2013年8月実施)による。

# 田園回帰—農山村の新傾向—

## ■短期的課題

①**仕事**（仕事が少ない、選択の幅が小さい）

②**住宅**（空き家が流動化しない）

③**閉鎖的コミュニティ**

※いずれも**状況が変わりつつある**

## ■中長期的課題

**移住の長期化への対応**

- ・特に子どもの教育費負担（都市部への大学進学）



# おわりにー新しい日本へー

## ■都市住民と共有できる農山村の新しい役割

- ①新たなライフスタイル、ビジネスモデルの提案の場
- ②少子化に抗する砦
- ③再生可能エネルギーの蓄積
- ④災害時のバックアップ

## ■現在の歴史的的位置

→東京五輪、「過疎」から半世紀後の「地方創生」  
「いままでの半世紀、これからの半世紀」  
という視野を持つこと

以上